

はまなす季刊 夏 119

Vol.119 ❖ 2025/8/25 発行



タニウツギ 2025年5月31日 前田森林公園にて撮影 工藤 立史

巻頭言

手術室でも地球温暖化対策

理事長 工藤 岳秋

地球温暖化の影響を実感させられる暑い夏がここ数年続いています。北海道でも最高気温が35℃以上となる猛暑日が珍しくなくなりました。

地球温暖化は二酸化炭素をはじめとする温室効果ガス（GHG）の排出増が主たる原因です。化石燃料の燃焼による直接の排出以外に、火力発電によるエネルギーを使用した生産活動や、材料の調達、輸送、販売、使用、廃棄なども間接的な排出とみなされます。

医療分野のGHGは地球全体における排出量の4%以上で、外科診療がその三分の一を占めます。中でも手術室では全身麻酔に用いるガスがGHGそのものであることや滅菌された使い捨て器具の多用が問題になっており、欧米では麻酔ガスの流量の低減を試みたり、手術着や器械のリユースを推奨したりする動きが見られます。

猛暑日を減少させる一助となるように、私たちもできることから地球温暖化対策に取り組んでみようと思います。

新しく入りました！

4/14

篠路はまなすクリニック
臨床工学技士 塚原 信



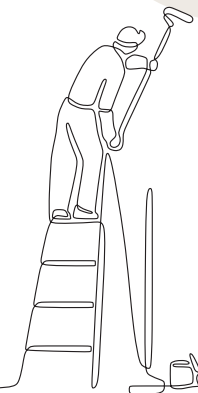
5/7

はまなす医院
看護助手 庭瀬 祐子



6/1

篠路はまなすクリニック
看護師 大作 美咲（おおさく みさき）



編集後記

夏になると楽しみにしていることがあります。それは夏祭りを見に行くことです。

フラダンスやカラオケ大会、よさこいなど個性豊かな催しものを見ながら「上手だ、下手だ」と自分なりの感想を好き勝手に言いながら見物します。相席の方との話に花が咲くこともしばしば。ピング大会に参加するともっと楽しめます。

これから夏本番、昼間からビール片手から揚げ、焼き鳥をつまみに熱くて短い夏を満喫するつもりです。

（N・Y）

表紙写真

タニウツギ

初夏を告げるこの花は、小枝の先から淡紅色～紅色の美しい花をたくさん咲かせます。北海道西部から本州にかけて自生しますが、庭園などに鑑賞目的で植栽されることも多いです。今回は前田森林公園を散歩中发现しました。

（工藤 立史）



医療法人はまなすHP→
<http://www.hamanasugeka.com>



医療法人
はまなす

篠路はまなすクリニック

〒002-8024 札幌市北区篠路4条9丁目12番45号
TEL (011)776-3030・FAX (011)776-3001



医療法人
はまなす

はまなす医院

〒061-3284 石狩市花畔4条1丁目141番地1
TEL (0133)64-6622・FAX (0133)64-6555

「池上前師長、松井新師長に聞きました」

総務 永田 裕士

池上前師長は2007年に医療法人はまなすに入職、2019年に篠路はまなすクリニック看護師長に就任し、本年6月まで篠路はまなすクリニックを支えてくれました。

今後は「医療福祉相談室 室長」として、引き続き地域医療に貢献してくれることになりました。



松井新師長 & 池上前師長



池上前師長と工藤理事長

✳️師長を退任した今の気持ち

皆さんに支えられて、無事に役目を満了できてほっとしています。

電話を気にしない生活は最高です。

✳️これからやってみたいこと

友人が還暦記念にバイクで日本一周したのに触発されて、「おひとり様」を極めたいと思っています。一人旅はもちろんですが、ソロキャンプにも興味があり、挑戦してみたいです。

日本一周はハードルが高いので、まずは道内一周を目指してみたいです。

✳️医療福祉相談室の役割

当院は、透析、外来、入院ともに高齢の方の割合が高く、介護サービスを利用されている方も増えています。介護保険というワードは知っていても、どのようにしたら利用できるのか、どんなサービスが受けられるかなど知らない方が多いです。

必要な方に必要なサービスを受けられるようにすることは、少しでも長く自宅で暮らすためには不可欠です。また、介護事業所や市の保健福祉課と情報共有することで、多方向から患者様をサポートできる体制が構築されと考えています。

医療と介護の橋渡しが自分の役割だと思っています。

✳️今後の抱負

地域に根差した医療機関として近隣の医療・福祉機関との連携を大切にして、「その人がその人らしく、安心して生活できる」ことを目標に、微力ながらそのお手伝いをさせていただきたいと思っています。

「なんでも相談できる場所」になれるように患者様に積極的に声かけをすることはもちろん、地域の連絡会や勉強会に積極的に参加して、情報の刷新をすると同時に当院のPRもしていきたいです。

気にかかる患者様がいらっしゃいましたら気軽に声をかけて下さい。

松井新師長は2009年医療法人はまなすに入職、篠路はまなすクリニック透析室看護師主任、副師長を歴任し、本年7月から師長として篠路はまなすクリニックを支えてくれることとなりました。

✳️師長に就任した今の気持ち

篠路はまなすクリニックに努めて15年になります。

師長と呼ばれてもまだ慣れませんが、今できることを確実にし、今後さらにステップアップしていきたい。

✳️目指す師長像

コミュニケーションを取りながらスタッフと関わり、スタッフが長く働きやすい環境を作っていけたらと思います。

スタッフの成長をサポートし、一緒に成長していきたい。

✳️医療法人はまなすの文化として根付いていると思うものはありますか

スタッフの人柄が良く、仲が良く、コミュニケーションを取って仕事をしているところ。

✳️今後の抱負

師長としてまだまだ未熟ですが、多くの経験を重ねながら、皆さんと一緒に成長し、地域医療に貢献できればと思っています。

元氣な職場作りを目指し、スタッフが楽しく仕事に取り組めるようにしていきたいです。



新・旧師長を囲んで。



マドリッド・アトーチャ駅構内

今年の4月、テレビの国際ニュースはスペインで大停電が発生し鉄道や空港に大きな影響が出たと報じていた。スペイン国鉄の新幹線AVEも運休したとのことで、私は2006年7月セビリアへの旅行のことを思い出した。

スペインへの直行便はなく、私はパリで乗り換えるルートを選択した。成田を深夜11時に出発しパリには午前4時に着いた。明け方の空港は閑散としており、お店はどこも開いていない。スペイン・マドリッド行きへの乗り換えまで3時間ほどあり、搭乗ゲート前で待つのみだった。そんな時、中年の日本人男性を見かけた。話しかけてみると、パリまで同じ便に乗り合わせており、彼もこれからセビリアへ向かうという。男性は岸本庄八郎さんという、鎌倉在住の彫刻家で、美術仲間に会いに行くところだった。お互いにセビリアは初めてであり、話すうちに意気投合し一緒に行動することになった。

マドリッドには2時間足らずで到着、AVEの発着するアトーチャ駅まではタクシーを利用したが、割り勘になったので得をした気分だ。13時発のチケットを購入、カフェに入って軽食をとった。岸本さんはお酒が大好きでワインなどを飲むうちに、あつという間に時間が過ぎ、発車時刻がギリギリになった。それでも急いで改札へ向かい、列車に駆け込めるはずのところを、寸前で駅員に止められてしまった。AVEは定時運行厳守のため発車2分前には乗車を締め切るのだという。そのときすでに発車1分前、あきらめるしかなかった。目的地のセビリアまであと2時間半のところにて足止めである。1時間後に出る次の便の予約を取り直したのだが、



セビリアでの記念撮影（左端が岸本さん、右から2人目が筆者）

21ユーロ（約三千円）も追加料金が必要になった。安くあげたタクシー代が消えてしまった。セビリア駅に着いたところで岸本さんとお別れするつもりであったが、美術仲間との食事会へぜひ来てほしいとのこと。少しためらったが、せっかくなので縁であり言葉に甘えることにした。街中の温度計が42℃をさす中を待ち合わせ先のレストランに到着。そこで地元スペインやオーストリアの4名の美術家と合流した。フレンドリーな人達で、飛び入り参加した私にとっても楽しいひとときであった。

帰国後19年にわたって岸本さんに連絡をとることはなかった。だが、今春のスペイン大停電のニュースをみて、にわかに彼のことを思い出した。当時いただいたアドレスへメールを送ってみると、すぐにお返事が来て懐かしがって下さった。現在も鎌倉在住で、ご自身の個展を開くなど芸術活動をされているとのこと。まだ彼の作品を目にしたことがないため、今度お会いすることがあればぜひ見せていただき、スペインでの失敗談に花を咲かせたいものである。今度は電車に乗り遅れないつもりである。

スペインで出会ったアーティスト

副理事長 工藤 立史

手稲溪仁会病院 腎臓内科主任部長 茂庭仁人先生にきく

Moniwa Norihito

聞き手／はまなす医院院長 工藤 立史 〈2025年6月26日 手稲溪仁会病院にて〉

日頃から手稲溪仁会病院よりたくさん
の患者さんをご紹介いただき、大変お世話
になっております。この度、腎臓内科の茂庭
先生にインタビューする機会をいただきま
した。

※腎臓内科を専門にされています。数ある診
療科の中から腎臓内科を選んだ理由をお
聞かせください。

大学卒業後、札幌医大第二内科へ入局し
ました。医局の名称は循環器・腎臓・代謝内



茂庭医師

分泌内科へ変わりましたが、基本的に循環
器内科をメインに診療する科です。私もま
ず循環器内科の専門医を取得し、教室内の
4グループのうち高血圧グループに所属し
ました。このグループは高血圧の研究をし
つつ臨床では腎疾患も診ており、出張先の病
院でも腎・透析を診る機会が多くありまし
た。その過程で医局の関連病院でもある手
稲溪仁会病院腎臓内科へ赴任し現在に至っ
ています。

※アメリカ留学を経験されています。苦労し
た点や、印象に残っているエピソードがあ
ればお聞かせください。

まず留学先を決めるまでが大変でした。
ちやうど教授が変わるタイミングでした。前
任の教授は私と同じ高血圧が専門だったの
ですが、新任の教授は虚血性心疾患が専門
のため、自分で留学先を探さなくてはなりま
せんでした。当時京都で開催された国際学
会へ海外の著名な教授達が来られていて、そ
こで何人もの先生方に留学先として受け入
れてもらえないか打診してみました。その結
果アメリカのウェイクフォレスト大学で受け
入れ可能とのお返事があり、留学すること

が叶いました。留学してからは、言葉の問題
は多少ありましたがそれほど大きな苦労は
なかったように思います。ただし、大学のあ
るウィンストン・セラム市には日本人が極
めて少なく、日本人学校もないため子供達は
アメリカンスクールに通うなど大変な面も
ありました。

※スタッフの多い職場かと思えます。「コミュ
ニケーションを円滑にするにはどのよう
なことが大切だと思いますか？

この病院は約2000人の職員が勤める
大所帯です。それぞれの部門のチーフと仕事
をすることが多く、「多職種連携」が進んで
います。たとえば、院内に「臨床倫理検討部
会」という組織があり、私はその部会長をし
ています。認知力低下などで治療の意思決
定をできない患者さんに対し、医師、看護
師、ソーシャルワーカーなどが集まってディ
スカッションを行うことがあります。ACP
(Advance Care plan
ning)といって、患者さんが元気なうち
に、終末期の医療について話し合いを行い、



工藤立史院長

本人による意思決定を支援する取り組
みを行っています。各職種間で良好な関
係を築くことで円滑に話し合いが進み
ます。日頃からいろいろな部門で信頼で
きる人を作っていくことが大切だと思
います。

※医師以外でなりたかった職業はあ
りますか？

子供の頃はコックさんになりたいと
思っていました。丈の長い帽子をかぶっ
てフランス料理などを作ってみたかった
です。もともと自分で料理はしますが、
最近では妻からの評判が悪いので、あまり
作っていません(笑)。

※手稲区を中心にCKDの連携をさ
れているとききました。具体的に何
のような活動をされているので
しょうか？

製薬会社とタイアップして地域の先
生方に向けた講演会をしています。「お
互いに顔が見える会」を開くことで連
携がスムーズに進むように活動してい
ます。先ほどお話ししたACPの講演
会も行っています。臨床倫理検討部会
はACPの指針を作成しており、腎臓
病領域における終末期医療の講演もし
ています。

ありがとうございます。臨床業務から終
末期医療の在り方に関わる仕事まで幅広
くこなされていることがわかりました。これか
ら患者さんの紹介、逆紹介をはじめ講演会
等でもお世話になると思います。さらなる
活躍を祈念いたします。



茂庭先生と

茂庭仁人先生「ご略歴」

1998年札幌医科大学医学部卒業、同年札幌
医科大学第一内科入局。
市立釧路総合病院、帯広厚生病院、手稲溪仁会
病院などを経て2006年に学位を取得。
2010年7月米国ウェイクフォレスト大学
へ留学。2016年6月札幌医科大学循環器腎臓
代謝内分沁内科講師、2021年4月手稲溪仁会
病院腎臓内科主任部長。2024年4月より同院
の院長補佐を兼務。
【資格】
日本内科学会認定医 総合内科専門医・指導医、
日本循環器学会専門医、日本透析医学会専門医・
指導医、日本腎臓学会専門医・指導医、評議員など
多数。

高村憩さん、長い間、お疲れ様でした

さる6月30日、病棟看護師主任の高村憩さんが
定年を迎えました。医療法人はまなすで22年間勤
務されました。そのあいだにお子さんの入学、ご
結婚そしてお孫さんが誕生されました。人生の多
くをはまなすとともに歩んで来たとのことでした。
また、はまなす医院と篠路はまなすクリニックの
病棟立ち上げ時にはレイアウトの提案、必要物品
の選定など、尽力してくれました。

今後ともはまなす医院で活躍していただけるとの
こと頼もしい限りです！。

これからもよろしく願ひ致します！

看護師 山田 尚子

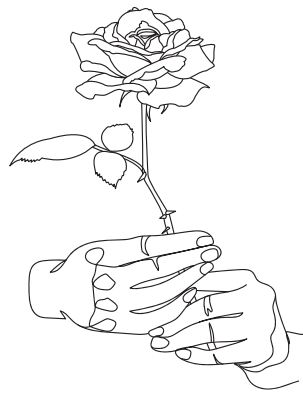


スタッフと記念撮影



高村主任と田宮師長

TOPICS



我が家のバラの花壇に数年前からアリジゴクが棲むようになった。春にバラが芽を出す頃大小7〜8か所ほど現れるのだが同じ個体ではなくて代替わりをしているのだろう。ジゴクというオドロオドロシ名前がついているせいかアリジゴクはそれなりに知名度が高い。だがそのわりに生態はあまり知られていないのではなからうか。

アリジゴクは砂地に直径2〜5cmほどのすり鉢型の巣を作る。すり鉢の底では「ジゴクの主」がじっと待機している。体長1センチにも満たない小さな体には不釣り合いなほど強靱な顎を持っていて獲物がすり鉢に落ち込むとすばやく捕えて体液を吸いとるのである。獲物としてはアリばかりでなくダンゴムシなんかも犠牲になっているらしい。もっとも獲物がいつワナにかかるかは他力本願、なかなか食事にありつけなくて、長いときは3か月間もの飢餓に耐えるという。

子供のころアリジゴクを飼って見たことがあった。容器に砂を入れて捕まえてきたアリジゴクを放すと四方に砂を飛び散らしながらきれいなすり鉢を作った。あとは体をその

底にうずめて静かに獲物待つ。エサにはハエを与えた。あらかじめ羽をむしり取られているハエは歩いてすり鉢の斜面をよじ登ろうとするのだが、登ってものぼってもすり落ちて、ついに地底に引きずり込まれていった。その後しばらくたってしなびたハエの亡骸（なきがら）が巣の外に放り出されているのが目にとまった。

何日か経つとその同じ場所に親指の頭ほどの肉団子のような塊が現れた。それが後になって蛹であったことを理解するのだが、さらに日をおいて体調4cmほどのトンボの出来損ないのような生き物が横たわっているのが認められた。ウスバカゲロウである。蛹が羽化して成虫となつて娑婆に姿を現したのである。

バラは多くの害虫を引き寄せる。新芽を出してからはそれらの駆除に追われる。アブラムシは歯ブラシでこすり落とし、毛虫やシャクトリムシなどを見つけ次第圧殺する。あるとき2センチほどの毛虫を足元のアリジゴクに放り込んでやっ

た。すぐに穴の底がモゾモゾとうごめいて毛虫は二つ折れになった。と見る間に濃い青緑の体液を吐き出し

ながら砂の中に消えていった。そもそもアリジゴクはどのような経緯で我が家の花壇にやってきたのだろう？バラの栽培を始めたころは見当たらなかったから何かが変わったようである。

心当たりがあるとすればバラのために行ってきた土づくりである。バラには弱酸性の粒状の用土が適している。そんな土壌を目指して毎年堆肥などの有機肥料をすきこんで

きた。土中のバクテリアを増やすために化成肥料や農薬は極力用いないようにした。その甲斐あってバラがよく花をつけるようになった。一方でアリジゴクにとっても住みやすい環境が出来上がったようなのだ。

6月に入って次々と開花するバラを眺めながら毛虫を与えられたアリジゴクのことを思いだしていた。その後その場所にはすり鉢が見られなくなっていた。毛虫はアリなんかよりも栄養価が高そうだから一生分の十分なカロリーが得られて働かなくともよくなったらしい。

そのうち毛虫で育ったウスバカゲロウの飛び姿が見かけられるかもしれない。

「バラと毛虫とアリジゴク」



TOPICS

ニプロ医療研修施設 (iMEP) を見学して

臨床工学技士 技士長 青木 玲香



ニプロ医療研修施設 (iMEP) にて

このたび日本透析医学会に出席するにあたって、滋賀県草津市にあるニプロ医療研修施設 iMEP (NIPRO Institute for Medical Practice) を見学する機会を得ました (6月26日)。この施設は2014年に開設され現在はドイツとタイにも同様の施設があって活用されているということです。iMEPは医療技術の進歩や機器の高度化とともに、安全性とスキルの向上を求めてスタッフの課題解決能力を高めるべくニプロが作り上げたものです。

ここでは在宅医療・介護の研修、医療機器の技術ならびに医療現場の模擬研修などが可能で、手術室、カテーテル室、病棟部屋、薬剤調合室、透析室ならびに在宅実習室なども供えられていました。

中でも驚いたのは、シミュレーター人形で、呼吸状態、脈拍、呼吸音、顔色の変化や冷や汗をかく様子等実際の人間同様に、注射することもできるものです。この人形を使用して患者が急変したときの状態を模

擬表現し、医療従事者の実践的な訓練とスキル向上のための研修を行っているとのことでした。

また別の部屋では、ニプロの歴代の透析機器やダイアライザーが展示されており、透析の歴史を振り返ることができます。

この度の見学を通じて医療技術や機器が実践の場で将来にわたってより一層向上していくという様子を目の当たりにした思いです。



透析医学会にて 左から、青木、三河、工藤立史

TOPICS

スタッフ勉強会を開催

― 篠路はまなす医院透析ラウンジにて (6月17日) ―



「医療における接遇」をテーマに医療安全委員会主催の勉強会が開催されました。

基本講演では、大正製薬株式会社が用意したスライドより、まず医療施設を選択する際にスタッフの対応の良さや相談のしやすさがかかわっていることが述べられ、次に患者様との間に起こったトラブルの実例からコミュニケーションの大切さを学びました。とくに透析医療では医療者と患者様のかかわりが長期になるためお互いの信頼関係を高めることが必要で、それによって患者サイドの正確な情報が得られ、正直な気持ちや疑問に思うことを話してもらいやすくなる、との内容でした。今回学んだことを生かしてさらにレベルアップしたいと思います。

臨床工学技士 野口 公貴